

入選

「親切」からつながる行動

福岡県 洞北中学校 一年

秀村 莉奈

小学校に入学したばかりの頃、私は毎日泣いていた。

あんなに楽しみにしていた小学校生活だったのに。毎朝、登校の時間が近づいてくると、不安な気持ちになった。家から数十メートル進むと不安な気持ちがおさえられなくなって、涙があふれ出てきた。玄関から足が動かない日もあった。

3才年上の兄と、兄の友達といっしょに行っていたけれど、泣いているところを見られるのが恥ずかしくて、先に行ってもらうことになった。私は一人で行こうとしたけれど、どうしても涙が止まらない。そんな私を助けてくれたのが、毎朝横断歩道に立って登校の見守りをしてくれているおばあさんだ。泣いている私に優しく声をかけてくれて、学校までの1キロを付き添ってくれた。

「学校はどう？」「友達はできた？」

と、話しながらいっしょに歩いてくれた。

それが何日か続いた後、不思議と気持ちが落ち着いて、私は泣かずに登校できるようになった。そのとき泣いていた理由は今でもよくわからないけれど、そのときに受けた大きな親切は私の心にいつまでも残っていた。

そして私は6年生になり、新しく入ってくる1年生のお世話をしようと思った。入学式で1年生を教室まで連れていくときに、「不安。」と言っている子がいた。私は、これから始まる学校生活を楽しく過ごしてほしいと思ったので、

「江川小には、いろんな楽しいことが待っているよ。平和ヶ丘っていう森があってね。そこで昼休みにいっしょに遊ぼうね。」と、声をかけた。

すると、それまで不安な顔をしていたその子の表情が、パッと明るくなった。その笑顔を見て、私も嬉しくなった。

それから毎日、朝休みは1年生の教室に行き、学校に着いたらやらないといけないことをいっしょにやって覚えてもらったり、絵本の読み聞かせやぬり絵をして遊んだ。昼休みも1年生といっしょに過ごした。

ある日、1年生の担任の先生に、

「いつも親切にしてくれて、ありがとうね。これからもよろしくね。」

と、お礼を言われたことが嬉しくて、自然と笑顔になった。そして、「私にも親切ができるんだ」と思うと、何とも言えない幸せな気持ちになった。

今の私は、まだ子供で無力だけれど、今の私にもできることはたくさんあると思う。親切がつながっていけば、人に優しい社会にもなると思う。あのとき、私が泣かずに学校へ行けるようになったきっかけをくれたおばあさんのように、私も困っている人がいたら立ち止まれる人になりたい。